

土台や柱に大釘打ち止めとすること。

★根太掛けの取付けレベルに付いては、仕上げレベルより検尺とする。

木材明細書には必要長さ（真々の長さか、+60mm(2寸)位の長さとする）を記入すること。（根太掛けも割合に定尺長さよりやや短かいのが多い）。

● 根太（ねだ）

根太方向は各部屋・部位の短辺方向か、床板・大引方向によってきまる。床板（仕上げ材料）の寸法（幅・厚さ・長さ）を考慮して根太の寸法（大きさ）や間隔を決めること。根太の固定・止め方に付いて、大引や根太掛けなどに根太止め大釘打ちは1か所に必ず2本（以上）打ちとすること。（根太の左よりと右よりで下地材の上部と下部（乱打）の2本）。

○1本拾いについて各部屋・部位別に根太の寸法別・長さ（実長さ+100mm(3寸)位とする）、別にまとめてみるが長さでは乱尺や乱数ができるので、木材明細書には乱尺なので定尺の3種類位（4m・3m・2m）に整理し、本数の端数は切上げて5本単位に調整すること。

○根太寸法で成（縦）の部分が不揃いで床仕上面が不陸となるので、根太の成（縦）を指定寸法に揃える為製品注文の際 P.L加工（リップソー）によるか、プレーナー加工とするかを木材明細書に記載しておくこと。

● 床板～（畳敷込等の下地板のみ）

構造材の一部として、和室畳敷込の下地板のみを記載する。

○畳敷込の和室の下地板は通常幅150mm(5寸)位、厚さ15mm(5分)以上、とし長さは、4m(2間)・3m(1間半)の材料が多く使用され、拾いでは内法寸法より90mm(3寸)位、広く考え板幅より板数を算出（端数切り上げ板数）し、板数に総幅×定尺長さ＝所要面積と板長さの必要長さを木材明細書に記載しておくこと。

★板材の1坪は $3.636 \text{ m}^2 = \text{幅 } 1.818 \text{ (6尺)} \times \text{長さ } 2.0 \text{ (1間)}$ ～拾い出し面積に注意

○工事に付いて、上級では下地板敷込み板厚さ揃え処理後板番付けをし、敷込んだ板をはずし現場内（下小屋）にて自然乾燥させ、畳敷込前に下地板本張りとする。工事中は仮設用材を使用する。中級では下地板（木裏を上とし）を仮張り（押え材にて押へ）畳敷込前に下地板（木表を上とし）本張りとする。「支障のない程度の釘止めとする。」

○最近下地合板を用いる例が多い。下地合板（通称コンパネ）場合の寸法に注意する事、 $3\text{尺} \times 6\text{尺} = 900\text{mm} \times 1800\text{mm}$ 、厚さは $9\text{mm} \cdot 12\text{mm} \cdot 15\text{mm}$ 、一般的な間取り部屋の場合では割付けによって拾えば間違いないが複雑な間取りの場合は床下地面積を算出し、

●下地板の場合、 $\text{m}^2 \times \frac{2}{3} = \cdot \text{m}^2 \div 1.5 = X \text{ 枚}$ （端数切上げ）

～上記の算出数値を目安とする。

○合板を使用する場合の注意事項として、換気、換流が悪いので、透き間を作る為300mm(1尺)間隔に、欠ぎ込み穴を明けると多少は換流が良くなる。